



よなごし
鳥取県米子市

コミュニティ部門

山口

島根

鳥取

広島

岡山

愛媛

香川

徳島

高知

6次産業化

地産地消

耕作放棄地
対策

かぶしきがいしゃだいせんこむぎぷろじえくと

No. 1 株式会社大山こむぎプロジェクト

～地域にとってなくてはならない地域商社に～

2, 生産農家の顔の見える化

国内小麦の中でも先進的な取り組みをしています



小回りがきくことを逆にとり、通常の製粉と異なり生産者指定とすることで生産者の名前が入った商品展開をおこなっている。

生産者さんの生産意欲の向上と繋がる



よりひらけた圃場に、ワークショップ等を定期開催し、小麦の生産にかかわることのできた圃場わたり小麦となるよう取り組みを進めていきたい



生産農家の見える化※生産者名の小麦粉は国内唯一

創る会(利用者)と生産者の懇談会
～食べる会～

経緯

- 2010年、パン職人の熱い思いに端を発し、酪農家が自家堆肥で肥やした圃場で小麦の生産を開始。
- 農家と食の担い手が地域に根ざして連携し「大山こむぎ」が誕生。
- 2010年にプロジェクトをスタートし、2018年に株式会社へ法人化。

取組内容

- 大山こむぎを地元中心にパン屋さんや飲食店をはじめ、学校給食用のパン用にも供給。
- 生産農家の顔(名前)の見える商品展開を行い、生産農家の生産意欲の向上。
- 生産、製粉、流通と連携する鳥取県産小麦の地域商社。

活動の効果

- 生産者が増え、現在鳥取県(中部～西部圏域)で8農家が45ha(耕作放棄地活用20ha)で生産し耕作放棄地対策に貢献。
- プロジェクトにより2017年ミナミノカオリ、銀河のちから2019年にチクゴイズミが県の産地品種銘柄に登録。
- 学校給食をはじめ大山こむぎの消費が拡大し収穫量が2012年19トンから2021年233トンに増加。



やずちょう
鳥取県八頭町

コミュニティ部門

山口

島根

鳥取

広島

岡山

農林漁業

企業との連携

環境保全・
景観保全

愛媛

香川

徳島

高知

ふなおかきょうせいのさとづくりすいしんきょうぎかい

No. 2 ふなおか共生の里づくり推進協議会

～人と自然と郷土と共に生きる里づくり～



交流体験で梅ぼりを教える



農泊事業と連携した廃校活用型農泊施設

経緯

- 農地が廃れていく故郷の景色に「どうにかせねば」と思い、集落営農組織船岡農場を立ち上げる。
- 農村の諸問題の解決のため、農家がまとまるだけでなく、地域と地域外、業種・世代を超えた連携の必要を感じ、その繋がりを作る交流や事業を行える仕組みをつくる。

取組内容

- 次世代への取組として保育園や小学校の田植え体験実施。
- 多面的機能支払制度の広域協定への参加により、地域の保全活動の実施。
- 集落と協議会で実行委員会をつくり、交流体験農園や農泊の受け入れを行う。

活動の効果

- 多くの団体で構成しており、新たに地域プロジェクトマネージャーを登用し、関連法人をたちあげるプロジェクトを始動。
- 地域の農地集約面積が75パーセントを超える。
- 農村ボランティア学生や地域おこし協力隊を中心に、共生の里づくり活動へ若者が参加し、延べ20人以上の若者が県外から移住。地域の活性化に欠かせない交流人口が増加。



おおだし
島根県大田市

ビジネス部門

農林漁業

6次産業化

女性の活躍



ゆうげんがいしゃあさひようけいしゃ
No. 3 有限会社旭養鶏舎

～目指せ！えごま玉子で地域に活力を！～



「えごま玉子」



直売所 多数のアイテムが並ぶ店舗内

経緯

- 大田市の人口減少に伴い、卵の消費量も減少し、付加価値の高い卵の生産の必要性を感じた。
- 島根県が産地化を進めるエゴマは健康に良い α -リノレン酸を多く含んでいるため、飼料として直接与えた鶏が産んだ「えごま玉子」の生産を思いついた。
- 耕作放棄地を活用したエゴマ栽培を考える。

取組内容

- えごま玉子の生産と、えごま玉子を原料とした加工品(25アイテム)を自社工場で製造。
- 大学や病院と連携し、えごま玉子を食べることの効果について検証し、健康に良い効果が示された。
- ITとオートメーション化、6次産業化を積極的に進め、社員の半数近くは女性が働き、女性役員・管理職の登用も積極的に行う。
- 当社退職者や周辺の高齢者に声掛けし、エゴマを栽培。

活動の効果

- 加工品全てのフレッシュさと無添加をコンセプトに掲げており、鶏舎横の直売所には、毎日多くの消費者が来店する。
- 男性職員のみであった営業配送業務に女性職員を配属したところ、消費者に対する気配りにより、新規顧客獲得に繋がった。
- エゴマを生産する近隣農家とともに生産組合を立ち上げ、エゴマ生産による収入をもたらしている。



にしあわくらそん
岡山県西栗倉村

ビジネス部門

農林漁業

6次産業化

学生・若者の
活躍



かぶしきがいしゃにしあわくら・もりのがっこう
No. 4 株式会社西栗倉・森の学校

～モノづくりのきっかけに出会う端材販売所～



販売する端材製品イメージ



HAZAI MARKET イベント時

経緯

- 2009年西栗倉村に設立。周辺地域の山から伐り出される間伐材を原材料に木材加工に取り組む会社。
- 工場の生産量が増加するに従い、製造工程でラインアウトする端材が増加。処理に困る問題を抱える。
- プロユーザーには販売できない規格外製品を販売する取組を開始。

取組内容

- 少量多品種のモノづくりに強みをおいて事業を展開。
- 製造工程で出てくる端材処理が問題となっていたところ、DIYユーザーにとってはお値打ちで面白い木材であることがわかり、端材販売所HAZAI MARKETに取り組む。
- HAZAI MARKETは大学生が廃コンテナを改装し、1ヶ月半でお店を立ち上げた。

活動の効果

- 端材処理が問題であったが、端材を販売することによりゴミが減り、会社にも利益をもたらす。
- 2021年春に開催した2日間のイベントでは人口1412人の西栗倉村に620人の来客があった。



はつかいち
広島県廿日市市

ビジネス部門

農林漁業

雇用

教育機関との
連携



ばんこけいようぎょかんこうかぶしきがいしゃ
No.5 万古溪養魚観光株式会社

～海と川を行き来し、鱒！！～



子供から大人まで楽しめる釣り堀施設



地元の短期大学と連携し、レシピ開発

経 緯

- 溪流魚の販売では冬季の売り上げが少なく、雇用の維持が困難。
- 同じく冬季に養殖可能な魚が限られ頭を悩ませていた広島県内の海面養殖業者や市場と連携し海と川で養殖可能なニジマスの生産を開始。

取組内容

- 川と海の養殖業者が卵から成魚まで一貫した生産を行う。1年目の種苗から海面飼育して確保した大型種苗を用いることで、早期出荷と大型サイズの生産を実現。
- 養殖場に釣り堀と食事処を併設し、釣った魚をその場で楽しめる賑わい施設を設置。規格に届かないニジマス釣堀用として無駄のない生産に取り組む。
- 市内の短期大学と連携し、「誰でも気軽に食べられるニジマスレシピ」を考案。

活動の効果

- 県内のホテル・飲食店等に取り扱いを依頼し、フランス料理や日本食の食材として提供され、魚食普及に貢献。
- 食育の一環として地元保育園・小中学校の給食、市内ゆかりの球団、地域イベントへ食材提供を行い、地域活性化や地産地消に貢献。
- 30代以下の従業員が2014年0名から2021年4名になり、地域の雇用が増加。



いわくに
山口県岩国市

ビジネス部門

農林漁業

農福連携



ふあむずきっちゃんいわくに
No.6 FAM' Sキッチンいわくに

～Food And Meet 岩国地域の「食と出会う場所」～



採れたて新鮮な野菜たちです



こども食堂提供にかかる調印式

経緯

○山口県東部に位置する岩国市は、約80%が山林で占められ、瀬戸内海沿岸部から1,000m超の山地まで、起伏に富んだ地形となっている。山間部は過疎、高齢化が顕著であり、地域の優良な生産物が消費者へ届けられず、農業者の所得も向上しないといった課題解決のため、販売拠点を設立。

取組内容

- 独自の集出荷システムを用いて、販売量を確保するため岩国地域全域から商品を出荷しやすい体制を整備。
- 店舗まで生産物を運べない生産者のために、巡回トラックにより集荷を実施。
- 陳列エリアを生産者に割り当て、生産者自らが創意工夫(POP掲示など)して販売を展開。
- 売り切れなかった商品を子供食堂に提供し、フードロス解消と貧困対策等に取り組む。

活動の効果

- 令和2年3月末現在で、オープン当初から約2倍となる生産者がシステム登録。巡回集荷の利用も活発化しており、地域限定の希少な農産物の陳列ができるようになり、農家の所得向上に寄与。
- 来客数は延べ80万人超となり、売上高も増加している。
- 子供食堂への食材提供により、地域の子供たちが食の大切さ、地域の豊かさに気づき、地域農業に関心を持つ食育活動に繋がっている。



いわくにし
山口県岩国市

個人部門

農林漁業

伝統の継承

新規就農者の確
保・育成・定住



うめかわ ひとき
No.7 梅川 仁樹

～わさびの産地化と就農支援により地域に活力～



山口県農業士協会による研修



首都圏就農相談ゆめツアー

経緯

- 岩国地域の畑わさびは、高齢化や栽培期間が長い等の理由から面積が減少し、産地存続が危ぶまれる。
- 超促成栽培と他品種との組み合わせにより産地の再興を考える。
- 産地化することで地域を活性化し、人の問題や農地の問題、高齢化による伝統芸能の継承など様々な問題を解決することが重要と考え、支援活動を本格化。

取組内容

- 山口県農林総合技術センターと連携し、わさびの超促成栽培を検証し、収益性の高い新技術を確立。
- 県農業士協会のリーダーとして、県内全域における移住・定住、新規就農者の支援に取り組む。
- 人・農地プラン等の話し合いに参加し、課題解決に向けた方針作成に寄与。
- 向峠神楽保存会に所属し、地元の小学生に神楽を伝承することにより伝統文化の継承に努める。

活動の効果

- 超促成栽培により高い収益性を確保することができた。
- 新規就農者に対し、栽培技術・経営学の習得支援だけでなく、就農した地域で生活する上でのアドバイス等を行うなどにより、定着率が向上した。
- 規模拡大や新規就農者の確保に向けた迅速な支援を行ったことにより、令和2年度の新規就農は2件（法人及び個人）。



徳島県美馬市

個人部門

地産地消

耕作放棄地
対策

教育機関と
の連携



よしだ ますみ
No. 8 吉田 ますみ

～手のひらの茶葉を豊かな農文化と伝統に～



二と八代表 吉田ますみ



地元の穴吹高校生徒との茶染め

経 緯

- 瀨名地区にUターンしてカフェを開業。そこから茶畑保全活動等を行うグループ「二と八」が生まれた。
- 「世界農業遺産認定地域・美馬市穴吹町瀨名地区で育まれた自然からの贈り物を子供たちの心に繋げたい」という想いで、2018年から活動開始。

取組内容

- 耕作放棄地となっている茶畑再生と、緑茶の製品化をすすめ、集落のブランディングプロジェクトに取り組む。
- 地元高校とのフィールドワークを実施し、商品開発まで行う。また、茶染め体験を実施し、パッケージまで仕上げる。
- 緑茶に関わる人々を増やし、その魅力や活動を通して感じたものを発信している。

活動の効果

- 茶畑保全活動への参加者は年々増加。
- 緑茶の商品開発をすすめ、ラインナップも4製品となる。使いやすいティーパックも販売。
- 美馬市ふるさと納税返礼品に選定。



かみやまちょう
徳島県神山町

ビジネス部門

地産地消

耕作放棄地
対策

食育・教育



かぶしがいいしや ふーどはぶ・ぶろじえくと
No.9 (株)フードハブ・プロジェクト

～地産地食 育てる、つくる、食べる、つなぐ～



地域のみんなで農業や食文化を次の世代につなぐ



地元の食材をたっぷりと使って作られる料理

経緯

- 中山間地域の神山町では、農業者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加などが大きな社会問題になっている。
- 地域の農と食を次の世代につないでいくために町役場、サテライト企業、町の公社の3者が出資し、地産地食に取り組む(株)フードハブ・プロジェクトを設立した。

取組内容

- 「育てる、つくる、食べる、つなぐ」という小さな食の循環システムを通し、地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営。地元の食材で加工品を開発。
- 新規就農者の受け入れを実施。
- 子供たちとの農業生産、加工、販売などの体験を実施。
- 地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。

活動の効果

- 地域の農業問題の解決、食文化の継承、雇用創出、移住促進、コミュニティの活性化、次世代教育など、幅広い範囲での地域社会の課題解決を担っている。
- 地元食材を使用した加工品は毎年コンスタントに開発している。



たかまつし
香川県高松市

コミュニティ部門

6次産業化

山口

島根

鳥取

広島

岡山

愛媛

香川

徳島

高知

おおのまめぶろじえくと
No.10 大野豆プロジェクト

～「大野豆」復活とその次代への継承活動～



香川第一中学校生が給食用空豆の皮むき



大野小5年生児童の「大野豆」収穫作業

経緯

○絶滅危惧種の讃岐筴空豆（通称「大野豆」）の生産復活を願う有志35名により、休耕田を活用した地域活性化、地産地消や環境保全活動に寄与すべく、大豆・黒豆・小豆・一寸空豆を加えた豆栽培を開始。

取組内容

○休耕田を活用して夏は大豆・黒豆・小豆、冬は空豆を生産し、年間約1.5tの販売を行っている。
○休耕田約50aから始まって、約70aに拡大。
○収穫物は豆菓子に加工されている。
○小中高生の環境学習として、豆栽培作業、豆加工品作りから販売、大野地域での栽培の歴史等の学習を実施している。

活動の効果

○（有）筒井製菓の豆菓子製造ラインにおいて、国産品の豆菓子製造が復活した。
○小中高生への総合学習は地域を知り、プロジェクト活動を地域に広げる核となっている。
○平成27&28年かがわ農商工連携ファンド事業における6次産業化代表事例に選ばれる。



みとよ
香川県三豊市

コミュニティ部門

農林漁業

6次産業化

地域活性化

山口

島根

鳥取

広島

岡山

愛媛

★香川

徳島

高知

みとよのみぷろじえくと
No.11 みとよのみプロジェクト

～みとよのとくべつよりすぐり 地域ぐるみで地域産品づくり～



みとよのみプロジェクトで開発された商品



みとよのみプロジェクト販売促進フェアの様子

経緯

- 三豊市は果物や野菜が豊富な地域だが、大半が近隣の消費地に出荷され、地域資源を活用した地域産品はなかった。
- H31年、商品開発について、地元農産物の魅力や地域活性化について三豊市と生産者を中心としたワークショップを開始。地域産品づくりに取り組むプロジェクトがスタート。

取組内容

- 市内にある魅力的な農産物、水産物等の6次産業化や地域産品の開発に取り組み、地域農水産物のブランド化を推進。
- 地域農産物と生産者を題材にしたホームページ制作やSNS等による情報発信に取り組む。首都圏や関西の展示会やオンライン商談会などに参加し、農産物の魅力をPR。三豊市のふるさと納税の返礼品登録などを行う。

活動の効果

- 地域産品による商品開発で、こだわりの地域産品が完成し、地域のブランド化を推進。
- 新たな地域産品の売上高は上昇している。
- 情報発信により地元新聞やメディアに取り上げられる。
- 展示会やアンテナショップでのフェアにより、認知度が向上した。



しょうどしまちょう
香川県小豆島町

コミュニティ部門

6次産業化

企業との連携

高齢者の活躍

山口

島根

鳥取

広島

岡山

愛媛

香川

徳島

高知

ちーむそらまめ
No.12 チームそら豆

～そら豆醤油から生まれる笑顔のために！～



情報交換の場として活用される巡回指導



アレルギーフリーそら豆醤油

経緯

- 株式会社高橋商店と香川県産業技術センター発酵食品研究所が大豆・小麦アレルギーで醤油が食べられない人のために、「そら豆醤油」を開発。
- 原料を小豆島産100%にしたいと呼びかけ、平成20年、乾燥ソラマメを生産する組織「チームそら豆」が結成された。

取組内容

- そら豆醤油の原料となる乾燥そら豆は国産がなかったため、チームそら豆で原料生産を担う。
- 栽培や病虫害防除の適期、収穫時期等にあわせて圃場の巡回や講習会を実施。
- 収穫物は全量買い取り契約で行っている。

活動の効果

- そら豆の栽培面積は拡大、そら豆醤油の製造量も増加。
- 地元企業との契約栽培により、高齢農業者に「より良いものを作る」という目標とやる気生まれ、アレルギーフリーの商品の原料供給を担うことで、次世代に役立っていると生きがいを感じて栽培に取り組むことができるようになった。



やわたはまし
愛媛県八幡浜市

コミュニティ部門

6次産業化

伝統の継承

学生・若者の
活躍

山口

島根

鳥取

広島

岡山

★愛媛

香川

徳島

高知

えひめけんりつ かわのいし こうとうがっこう ぎやっぷちーむ
No.13 愛媛県立川之石高等学校 GAPチーム

～GAPでつながる地域の輪～



柑橘11品目でグローバルGAP認証取得



農業遺産・復興マルシェ(西日本豪雨)

経緯

- 地域社会において、農業分野のグローバル化への対応を牽引・指導する次世代リーダーの必要性を実感。
- 平成28年度から(株)ミヤモトオレンジガーデンの協力を得て、柑橘のグローバルGAP認証取得を目指して取り組み、地域のモデル校を目指すことで次世代リーダーを育成。

取組内容

- グローバルGAPを認証取得した柑橘を加工し、台湾へ輸出。
- 柑橘や柑橘加工品の輸出、GAP認証取得、GAP学習会、販売学習などを地元企業3社と連携して実施。
- 被災した柑橘農家の応援のため、地元地域や東京で復興マルシェイベントに参加。
- 大学や農業大学の職員を講師に招き、柑橘園付近に生息する鳥獣害対策を学習すると共に生物調査を実施。

活動の効果

- 鳥獣害対策や生物調査、GAP認証取得が日本農業遺産認定に繋がった。
- 海外輸出における成果や課題をJAなどに共有することで地域に還元。
- 地元企業と連携した取組を通じて生徒(農業後継者)の育成に繋がっている。
- 被災した柑橘農家を応援することで地域の活性化に貢献。



やわたはまし
愛媛県八幡浜市

コミュニティ部門

農林漁業

地産地消

食育・教育

山口

島根

鳥取

広島

岡山

★愛媛

香川

徳島

高知

えひめけんりつ やわたはま こうとうがっこう しょうぎょうけんきゅうぶあきんど
No.14 愛媛県立八幡浜高等学校 商業研究部A★KIND

～魚食教育の推進と水産業の魅力発信！～



小学生との給食交流会



地元イベントでの販売活動

経緯

- 本校商業研究部は平成12年から「バーチャルカンパニーA★KIND（アキンド）」の名称で活動。
- 八幡浜市に水揚げされる魚に「未利用魚」が多く存在することを知り、未利用魚の活用を考案した。
- 「発信力の弱さ」を改善して「魚食の推進活動」を強化し、水産業の魅力を発信する活動を行っている。

取組内容

- 未利用魚を使ったメニューを小中学校に給食として提供。
- 未利用魚の魚食マップのクリアファイルを作成し、小学生に提供。
- 未利用魚を使用した定食（3種類）を提供するツアーを実施。イベント定食として提供。
- 地元日曜市で販売活動を実施。
- コロナ禍では商品開発を中心に活動を行っている。

活動の効果

- 日曜市での販売活動では予想以上の売上が実現した。
- 当活動に興味を持ってもらえる関係機関も増え、イベントへの参加依頼が増加し、取組が広がってきた。
- 魚食の普及は学校給食のメニューの考案等、継続的に実施できるようになった。



こうちし
高知県高知市

コミュニティ部門

ジビエ

**鳥獣被害
防止**

**学生・若者の
活躍**

山口

島根

鳥取

広島

岡山

愛媛

香川
徳島

高知



こうちしょうぎょうこうとうがっこう ジビエしょうひんかい はつはんぱいそくしんぶ

No. 15 高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部

～ジビエを通じた循環型社会貢献活動～



初めての地域での販売



高校生ジビエ・レストラン出店

経緯

- 森林率全国1位の高知県では鳥獣被害が深刻な課題。
- H29年度にハンターである本校教諭から鳥獣被害等の話を聞いた生徒たちが課題解決に向け活動を開始。
- H30年、本格的に捕獲された個体をジビエとして利活用・商品化し、販売活動を開始した。

取組内容

- 「野生獣からみんなが大好きな商品へ」をコンセプトに開発商品第1号の子どもも食べられる「鹿肉入りカレーパン」を商品化。
- 感染症拡大により販売機会が減少する中、「ジビエの利活用を止めるわけにはいかない」と高校生ジビエレストランを出店。
- 販売利益をシカなどの食害を受けた森林保護活動に寄付するとともに植樹活動に参加。

活動の効果

- 活動を通じて生徒たちが自ら「森林保護で陸の豊かさを守り、よりよい社会形成の実現に貢献する」という明確な活動目的を発見。
- 地道な調査(Research)、商品企画(Plan)、販売(Do)、商品の感想の聞き取りと振り返り(Check)を行い、新たな商品を誕生させる結果となった(Action)。生徒たちはPDCAサイクル活用の前に、実態を踏まえた商品開発プラン作りが大切であるということに気づけた。